

第1回子どものからだと心・研究会議 in 新潟 終了のご報告（お礼）

7月を迎え、皆さまにおかれましては、教育・研究・地域活動等にご尽力なされていると存じます。新型コロナウイルス感染症の再拡大も懸念されるところではありますが、様々な根拠ある情報を活用し、免疫力を高め、対応したいものです。

去る6月10日、「第1回子どものからだと心・研究会議 In 新潟」を新潟県長岡市にあるアオーレ長岡を会場に対面とオンラインによるハイブリッド形式で開催しました。当日は多くの方々にご参加いただき誠にありがとうございました。新潟では初めての試みでしたが、参加者数は対面とオンライン合わせ89名となり、実行委員も驚くほど盛会に終了することができました。

特別講演では、議長の野井真吾先生に「コロナ禍で考える！子どものからだと心」というテーマでお話いただきました。多くのデータに基づきながら、コロナ禍の生活が子どものからだに与え続けている影響の大きさ、また、大人の生活の変化が子どもに深刻に関わる現実について、ほんの少しの気づきで取り入れられる対応策なども含めて具体的にご説明いただきました。ともすれば、現代の生活は子どもの育ちに大切な「日中の光、夜の暗闇、そして元気に外あそび」が不足しやすくなります。子どもに優しい社会は大人も生きやすい。小さな積み重ねでも実践を継続することの大切さを再認識しました。

また『子どものからだと心白書』を使っただけの学習を新潟からも広めようと、白書編集委員の鹿野晶子先生と城所哲宏先生に、白書2022の膨大な資料の中からポイントを絞ってわかりやすく解説していただきました。白書を改めて見ると、子どもの豊かな育ちを阻む「何か？」があらゆるデータに見え隠れしていることに気付かされました。なお、研究会議 In 新潟 実行委員の2名も、子どもの居場所づくりに関する長岡地域での取り組み（須藤）と化学物質過敏症に関する話題（粟生田）を紹介させていただきました。このような機会をいただくことができ、たいへん感謝しております。

今回の会議で示されたデータや考え方に対し、多くの質問や意見が投げかけられました。参加者お一人お一人が、これらの内容に基づいて新たな発見や想像力を働かせる貴重な時間を過ごすことができたのだとすれば、実行委員としては嬉しい限りです。会議はひとつのきっかけに過ぎないと思います。子どもの権利を尊重し、成長・発達を見守るためにも、ここからさらに皆さんが情報交換の場を作り出し、交わされるお互いの言葉から新しく創造を紡ぎ合う「ノットワーキング（knot-working）」が大切だと考えます。

最後になりますが、当日は長岡市スポーツ協会の皆様をはじめ、多くの皆様にご協力いただきました。改めてお礼申し上げます。また今回の研究会議 in 新潟の開催にあたり、子どものからだと心・連絡会議よりご支援を頂戴いたしました。ありがとうございました。次は12月に開催される子どものからだと心・全国研究会議で、より多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

2023年6月30日

第1回子どものからだと心・研究会議 in 新潟 副実行委員長 粟生田 博子

当日の様子

対面：37名、オンライン：51名の皆様にご参加いただきました！ありがとうございました！



●野井先生のご講演



●実践報告：粟生田先生



●実践報告：須藤先生



●白書のダイジェスト報告

